

## SUPER GT 2019 シリーズ総集編

### 2017 シリーズチャンピオン獲得!!



#### 第1戦/4/13(土)14(日) 岡山国際サーキット 12位

第1戦は、GTRとNSX勢の圧倒的優位で開幕。予選Q2に進出した8台中、LEXUSマシンは37号車KeepPer TOM'S LC500のみ。



曇り空で迎えた決勝日、午前中に降りだした雨が本降りになり、セーフティーカー(以下SC)スタート、4周目に正式スタートが切られたが、GT300クラスのクラッシュが連続して起こり、レース続行は不可能、レース中止。SC走行中にスピンのニック・キャンディ選手は、クラス最後尾まで順位を落とすが、12位まで挽回したところでレース終了となった。

#### 第2戦/5/3(金)4(土) 富士スピードウェイ 7位



公式練習は4番手、上位とはほぼタイム差もなく、ポールポジションの期待が膨らむ。平川選手が予選Q1を2番手で通過、予選Q2、キャンディ選手に期待を託したが、ライバルに0.234秒差で逆転され、惜しくも2番手スタートとなった。

決勝日、ドライコンディションで行われたウォームアップ走行ではTOM'Sチームがファーストタイムを叩き出す。スタート直前に天候が急変、瞬間にウェットコンディションに。SCスタートから、冷えたタイヤで抜群の速さを見せるキャンディ選手は、トップを行くライバルの横に並ぶと豪快にオーバーテイクし、トップに。雨は激しさを増し、16周目に赤旗中断となる。30分後にレース再開、キャンディ選手が、再びトップを奪い返す。路面が乾きはじめ、ウェットタイヤでの走行が難しくなり、ピットイン。平川選手に託すも、コースインラップの1コーナーで、他車と接触。ホイールが損傷し、タイヤのエアが漏れてやむなくピットイン。しかし諦めずめくめく続けた結果、7位までポジションアップ、貴重な4ポイントを獲得した。

#### 第3戦/5/25(土)26(日) 鈴鹿サーキット 2位



キャンディ選手が予選Q1を3番手で通過、予選Q2では平川選手が、0.013秒差でチームメイトの36号車に逆転され2位!

### 2018 1.5pt差でシリーズ2位!!



#### 第4戦/6/29(土)30(日) チャン・インターナショナルサーキット 2位



重いうエイトハンデ(以下WH)を背負っての予選。平川選手が6番手にてQ2進出。予選Q2、キャンディ選手は残り時間30秒で4番手となり、さらにアタックをするも、5番手で予選終了。

決勝、平川選手がGTRにオーバーテイクを仕掛けるもコース外に押し出され、8番手に。しかし猛攻をしかけ、5番手までポジションを挽回。29周目にピットインし、ドライバーはキャンディ選手へ。35周目には3番手まで順位を上げ、さらにチームメイトの36号車に10秒差まで迫る。38周目にSCが導入され、2番手の36号車とのタイム差は一気に詰まる。レース再開直後から36号車に襲いかかり瞬間にオーバーテイク。さらにトップを狙い6号車を猛追するが惜しくも届かず、1.2秒差の2位にてチェッカーを受ける。

#### 第5戦/8/3(土)4(日) 富士スピードウェイ 7位



快晴で迎えた決勝レース。キャンディ選手が20周目にはWHに苦しんだ予選14番手から11番手まで順位を上げて、1回目のピットイン、平川選手に交代。ピットインを終えた別のマシンが100Rでクラッシュ、FRO(ファーストレスキューオペレーション)の対応で回収を行っていたため、他のマシンがピットインして前がクリアになったタイミングで順位アップを狙うが、SCが導入され、ピットインができない。やっとピットインがで

### 2019 #37 KeepPer TOM'S LC500

## 2ptの僅差で、シリーズランキング2位!

~今シーズンの成績~  
★予選結果: 8戦中7戦Q2進出  
★決勝結果: 優勝1回、2位2回、3位1回、4位2回、8戦中表彰台4回、4位2回  
※雨のため途中で中止になった開幕戦を除けば、全戦ポイント獲得!



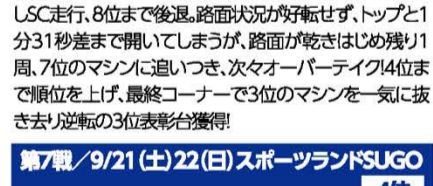
き、再びキャンディ選手に交代。クラス最後尾まで順位が落ちるが、12位まで順位を挽回、2回目のピットストップを終えた。106周目にアクシデント発生、107周目にSCが導入される。3回目のピット作業を行い、平川選手に交代。6位に順位を上げる。早めのピットインを行い、キャンディ選手に交代。150周目には4位に。表彰台獲得まであと1台となるがアクシデントが多発。最大レース時間を超過してしまい、レース終了。14番手から10台抜きの大健闘、4位でレース終了。

#### 第6戦/9/7(土)8(日) オートポリス 3位



決勝レース、予報では雨だが、午前中は快晴。スタートはキャンディ選手が担当、変わらずWHで苦戦した予選7番手から前を行くライバルに詰め寄る。21周回時に雨が降り始めるが、第1コーナーから2コーナーまででガクガク完全なウェットコンディションに。他はまだドライのため、ウェットタイヤに交換するとタイムが落ちてしまう。全車ドライタイヤのままレースが進み、22周目の1コーナーで8番手のマシンが37号車のアウト側から抜きにかかり、8番手に落ちてしまうが、路面が乾いているコーナーでイン側に飛び込み、2台抜いて6位に浮上。24周目には5番手のNSXを先程と同じ3コーナーでオーバーテイク! 29周目にピットイン、平川選手へ交代。コース全体に雨が降り始める。ライバル勢はウェットタイヤに交換する中、37号車はドライタイヤでのステイを選択。しかし濡れた路面の影響で36周目にSC導入となる。リスタート時点では4位。路面はウェットタイヤに有利なコンディションに代わっており、順位を落とす。さらに再びアクシデントが発生しSC走行、8位まで後退。路面状況が好転せず、トップと1分31秒差まで開いてしまいが、路面が乾きはじめ残り1周、7位のマシンに追いつき、次々オーバーテイク! 4位まで順位を上げ、最終コーナーで3位のマシンを一気に抜き去り逆転の3位表彰台獲得!

#### 第7戦/9/21(土)22(日) スポーツランドSUGO 4位



決勝レーススタートになるタイミングで雨が降り始める。タイヤを交換するチームが続出。SC先導による決勝レーススタート、37号車は5周目に2位、トップのNSXを追う。雨は弱まる気配なく、ドライタイヤでスタートし



たマシンはウェットタイヤへ交換。3位以下を大きく離しトップを追うキャンディ選手、タイムが上がらず、28周回時に予定通りのピットイン。平川選手に交代、コース上での1位マシンのオーバーテイクが難しいと判断したチームはタイヤ無交換で復帰させる。トップのマシンがピット作業を終えてコースに戻った周に2位だった37号車は、トップのマシンを捉えると一気にオーバーテイク! しかし雨が激しくなるにつれ、ミシュランタイヤとダンロップタイヤ装着マシンに追い上げられてしまう。タイヤとのマッチングには抵抗がなく4位に、追い付かず4位のままレース終了。6号車の前でゴールし、7ポイント差まで詰め最終戦に向かう。

#### 第8戦/11/2(土)3(日) ツインリンクもてぎ 1位



最終戦はポイント獲得によるWHもなくなり、真の実力勝負となる。予選は4位、ライバル6号車の先行を許してしまう。

秋晴れの決勝レース、キャンディ選手がスタート直後の第3コーナーでライバル6号車のミスを見逃さずイン側にマシンをねじ込み3位に浮上。さらに2位走行の23号車を猛追し、第3コーナーでGT300クラスのマシンをうまく使い、オーバーテイクで2位浮上。トップは36号車との差は詰まるもののオーバーテイクが難しいこのサーキット。37号車は早目のピットインを選択し19周目にピットイン、平川選手に託す。32周目、3コーナーでアウト側に膨らんだ36号車のイン側に滑り込みオーバーテイクトップに浮上。そのまま順調に周回を重ね2位以下を大きく引き離し今シーズン初優勝!

## Driver's Comment

### 平川 亮 選手

今年も1年間の熱い応援をありがとうございました。ドライバーズチャンピオンは逃してしまいましたが、シーズンを通してとても良かったと思います。キャンディ選手と組んで3年目になりましたが、チャンピオン・2位・2位と、もちろんチャンピオンを取るのが間違いなくベストですが、KeepPer Tom's 37号車は今年も常にライバルに速さを見せつけてきました。ライバルの6号車チームランマンがボーナスポイントがある富士で優勝をして、ポイント差が大きく開いてしまった後の3レースは、チーム全体での追い上げのパワーは凄かったです。最終戦のノーウェイトの「ガチ」の状態では勝ってしまいましたし、内容としては良かったです。しかし、今年足りなかったものとしては、運だと思っています。勝負事なのでもちろんどのスポーツにもいえることです。それも含めてのレースなので、来年は運にしっかり味方していただけるように日頃の行いを良くしておきます(笑)。そして来年はSUPER GT 500はスーパーに車が変わります。ちょうどテストで車を仕上げているところ。デビューチャンピオンを取れるよう、来年は頑張ります。



### ニック・キャンディ 選手

今シーズンは、チャレンジングで、強い車で開幕したわけではありませんでした。しかし常に成長し、パフォーマンスを見させていただきました。その鍵は平川選手とエンジニア達とのコミュニケーションにあったと信じています。3年間一緒に戦い、高いレベルで機能しているからです。最後の6レースはすべてトップ4で終わっています。これはハンデがあるSUPER GTにおいて素晴らしい結果です。強さの秘訣は、難しいシチュエーションからのリカバリーにあったと思います。そして最も重要なファクターになったとも思います。1番良かったレースはオートポリスでした。ハンデが3ステージというとても難しい状況でも速かったからです。ここでは今年チャンピオンを獲得した車よりも1秒速い予選タイムを記録できました。この3年間素晴らしいリザルトを残すことができ、KeepPerのドライバーとしてとても誇りに思っています。もちろん、この3年間すべてチャンピオンを獲得することはできませんでした。なぜなら、ここ2年はトップとの差はほんの少しだったからです。ですから、我々のチームとしてのパフォーマンスを考えると、悔しい思いがあります。素晴らしいブランドKeepPerと共にレースできてとても嬉しく思っています。

